

① 山陰海岸ジオパークでの主な災害

近畿地方には多くの活断層が密集し、過去に幾度となく直下型地震が発生してきました。山陰海岸ジオパークエリアにおいても、下記3つの大きな地震が発生しています。

1925年 北但馬地震(M6.8)

(T14) 震源：豊岡市北部・死者428名
「北但大震災」とも呼ばれ、震源に近い城崎温泉街及び豊岡の市街地に大きな被害を出しました。



1927年 北丹後地震(M7.3)

(S2) 震源：丹後半島北部・死者2,925名

「丹後大震災」とも呼ばれ、共役断層である北北西-南南東の郷村断層と東北東-西南西の山田断層が同時に動きました。これらの断層は、日本で初めて「活断層」という用語が使われたことでも知られています。



1943年 鳥取地震(M7.2)

(S18) 震源：鳥取市・死者1,083名
東北東-南南西に伸びた吉岡断層と鹿野断層が現れました。



④ 京丹後市での「大地の学習」

京丹後市教育委員会では、京丹後市内の小学生を対象に、「大地の学習」を進めてきました。

- 「大地の学習」は、小学6年生を対象に毎年実施されているもので、
- ①事前学習(ジオパークの基礎、北丹後地震等)
- ②市内のジオサイト(立岩、琴引浜、郷村断層等)の見学・体験
- ③移動中の学習(気象観測機器、地震計等)
- ④発展学習

の4つをセットで学び、中学校での学習も想定した教材が作られています。

毎年8月ごろに、京丹後市主催の指導者研修会が実施され、教職員

の知識の習得に努めるとともに、指導者の育成を進めています。

また、山陰海岸ジオパークでは、ジオサイト等を案内するジオガイドを育成しており、その中のカリキュラムの1つに防災について取り入れるとともに、エリア内のジオガイド同士の交流を通じて、エリア全体の地域や団体に対する相互理解やジオツーリズムの展開を進めています。



大地の学習



指導者研修会



指導者研修会

② 災害からの復興及び直下型地震遺産の保存と活用

1 北但馬地震

北但馬地震により壊滅的被害を受けた城崎温泉では、地域が主体となり復興計画が作られました。当時の防火壁は観光サイトとして残され、城崎温泉街を流れる大谿川(おたにがわ)の護岸や玄武洞のある豊岡市赤石集落の家の石垣には、震災時崩落した玄武洞の玄武岩が利用され、風情豊かな景観を作り出しています。



城崎温泉の街並み(豊岡市城崎町)

豊岡市街地では、復興に際して、道路幅の拡大や鉄筋コンクリート造の耐火建築物の促進に取り組み、地震・火災に強いまちづくりが進められました。豊岡復興建築群の一部は、2024年に「豊岡震災復興遺産」として兵庫県景観条例に基づき景観遺産に登録されています。

豊岡市田結の山では、震源断層を見ることができます。



旧豊岡町役場庁舎(豊岡市)



旧五軒長屋(豊岡市)

⑤ 協議会としての取組み

3府県6市町にまたがることを活かし、各市町の広報誌でジオパークについて定期的に紹介しており、2025年8月は「山陰海岸ジオパークエリアの地震について」と題した記事を掲載し、防災について今一度考えてみるよう訴えました。

また、昨年度は北但馬地震から100年を迎えることから、特に下記2つの事業に取り組みました。

- ①豊岡市・兵庫県但馬県民局及び豊岡河川国道事務所が5月に実施した「北但大震災100年メモリアル」に参画、出展しました。
 - ②建物の下になった人の救助より消火活動を優先し、結果的に被害を最小限にとどめることができた田結地区での活動を学ぶため、豊岡観光協会とともに、7月にフットパスを実施しました。
- ※フットパス：イギリス発祥の、地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くアクティビティ。
- 本年度の「丹後震災100年記念事業」にも参画予定です。



フットパス



フットパス



フットパス

2 北丹後地震

京丹後市では、震災後に建てられた丹後震災記念館(京都府指定文化財)などの欧風の建物が、震災復興のシンボルとして保存されています。

また、全長18kmの郷村断層は、代表的な露頭3か所が国の天然記念物に指定され、いずれも地質遺産サイトとして見学できます。



丹後震災記念館(京丹後市峰山町)

3 鳥取地震

1931年に建てられ、鳥取地震に耐えて残った3階建ての「五臓圓ビル」(鳥取市・国登録有形文化財)は、鳥取市に現存する鉄筋コンクリート造の一番古い建物で、地域の人たちの交流拠点として活用されています。

また、鳥取地震を引き起こした鹿野断層では、水路と石垣のずれが「鹿野地震断層の痕跡」として、鳥取県の天然記念物に指定されています。



五臓圓ビル

山陰海岸ジオパークとは

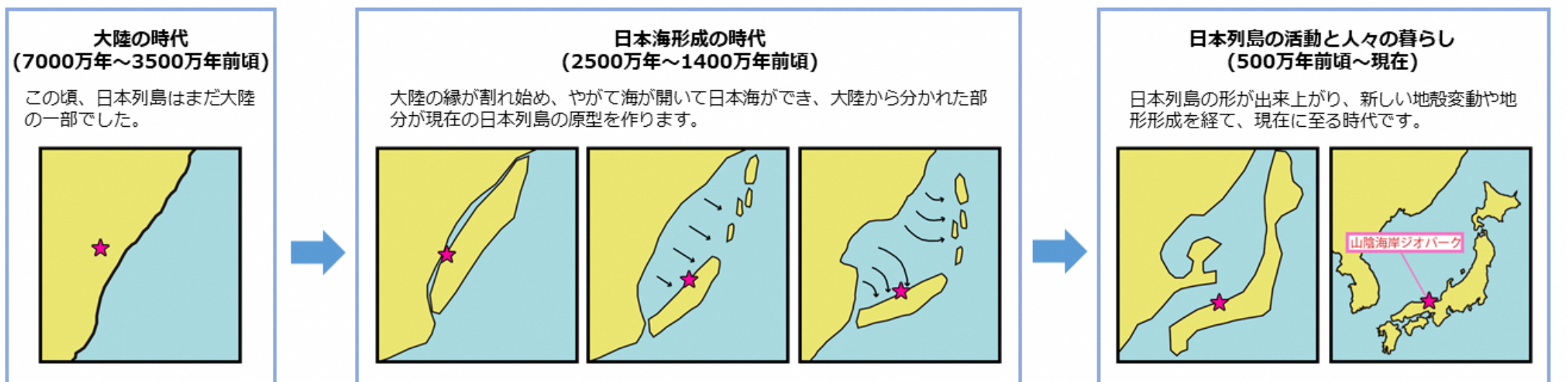
テーマ：日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土と人々の暮らし



山陰海岸ジオパークは、京都府(京丹後市)、兵庫県(豊岡市・香美町・新温泉町)、鳥取県(岩美町・鳥取市)にまたがり、山陰海岸国立公園を中心に、東西約120km、南北約30kmで、面積は2,458.4km²と、東京都より広い面積があります。

日本列島がユーラシア大陸の一部であった時代から、日本海が形成され現在に至るまでの様々な地質が存在し、それらを背景とした生き物や人々の暮らし、文化・歴史に触れることができます。エリア内の多様な地形・地質は、コウノトリやアベサンショウウオなどが生息する豊かな生態系を育むとともに、古くから人々の生活の場ともなっており、多彩な自然を背景とした人々の文化や歴史を学ぶこともできます。

山陰海岸ジオパークは、2008年に日本ジオパークに認定され、2010年に世界ジオパークネットワークに加盟しており、地球活動遺産をはじめとした多様な地域資源を地域住民、民間団体、企業、行政が協働して保全するとともに、教育、ツーリズム、地域産業に活用することで、持続可能な地域社会を目指した活動が行われています。



③ 拠点施設等での災害学習

山陰海岸ジオパークエリアには、8つの拠点施設があり、そのうちのいくつかの施設では、災害学習ができます。

■新温泉町山陰海岸ジオパーク館(新温泉町)

災害学習コーナー(常設)
山陰海岸ジオパークの北但馬・北丹後・鳥取の3つの地震の写真から災害の状況を理解するため、映像を流しています。災害の凄さや、人々の苦労が伝わってきます。

岸田川流域のジオラマでは、津波の際の影響の予測を、ジオラマから学べるようにしています。

■山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館(岩美町)

自然講座「地盤のプロと防災を考えよう！」(2025年9月6日)
9月1日の防災の日に合わせて、土や岩を調べる体験をととして、自然災害を学びました。
地盤のプロである中国地質調査業協会鳥取支部のみなさんが丁寧に教えてくださいました。

また、拠点施設以外の各市町の施設においても、企画展等が定期的に行われています。

■京丹後市立丹後古代の里資料館(京丹後市丹後町)

丹後古代の里資料館企画展示「丹後震災の記憶」
毎年春に開催。

■京丹後市峰山地域公民館(京丹後市峰山町)

「丹後震災記念展」
毎年3月頃に開催。丹後震災に関する写真パネル等の展示。

■豊岡市立歴史博物館―但馬国府・国分寺館―(豊岡市日高町)
第62回企画展「北但大震災100年―まちに刻まれた記憶―」
2025年7月18日(金)～11月25日(火)



新温泉町山陰海岸ジオパーク館 山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館

参考文献等

- 松原典孝・先山徹「山陰海岸ジオパークにおける直下型地震遺産の保存と活用」(Japan Geoscience Union Meeting 2012)
- 山陰海岸ジオパーク推進協議会学術部会「山陰海岸ジオパークジオサイトガイドブック(第2版)」(山陰海岸ジオパーク推進協議会2014)
- 新名阿津子「山陰海岸ジオパークにおけるジオガイドネットワークの構築とその広域化」(鳥取環境大学2012)
- 京丹後市「「大地の学習」フィールドワークハンドブック」(京丹後市2024)
- 鳥取県HP とっとり文化財ナビ「五臓圓ビル」
https://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/bunkazai_web_view/7D36825E6FD4593849257B6D00204C4A
- 兵庫県HP 豊岡復興建築群の魅力発信
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/tjk18/machidukuri/hukkoukenshiku.html>
- 兵庫県HP 北但大震災100年メモリアルイベントの開催
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/tjk01/press/20250416.html>
- 京丹後市デジタルミュージアム「F4丹後震災記念館」
<https://www.city.kyotango.lg.jp/top/soshiki/kyoikuinkai/bunkazaihogo/3/1/1/3437.html>
- 京丹後市HP 丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会
<https://www.city.kyotango.lg.jp/top/soshiki/kyoikuinkai/bunkazaihogo/bunkazai-nokeikakushingikai/20963.html>